

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 4月号

2020年4月1日発行

№94

事務局：大浜第一病院
〒902-8571 那覇市天久 1000 番地
TEL (098) 866 - 5171
FAX (098) 864 - 1874
E-mail toume@ns.omotokai.jp

編集：鶴淵 太郎
(沖縄協同病院)

次年度より、紙面郵送を廃止し、SNS配信
を予定しています。
随時登録の案内を開始します。しばらくお待ちください。

MSWニュースは毎月1日
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会ホームページに更新掲載されています
<http://www.msw-oaswhs.jp/>

* 入退会の届け出は、早めをお願いします！！ *

☆contents☆

研修参加報告	P2~3
在宅医療・介護連携報告	P4
トピックス「沖縄タイムス 暮らし相談室(医療)」	P5
部会からのお知らせ	P6~7

研修報告

「第8回沖縄県シャーシャルワーク学会 社会福祉公開セミナー2019 ひきこもりとソーシャルワーク ～その実像からひきこもりにとらわれない支援を考える～」参加報告

大浜第一病院 医療福祉課 与那覇 拓也

2020年2月22日(土)沖縄大学にて上記学会が開催され、沖縄県ソーシャルワーカー協議会の会員が日ごろの実践や研究などについて幅広く発表、報告を行いました。

今回、私は「脊髄損傷患者の退院支援を通して」と題して演題発表の機会をいただきました。何不自由なく生活してきた40代の患者が脊髄損傷により両下肢麻痺が残り、サポートできる身内がおらず、利用できる制度が限られている事、家屋環境の問題もあり、退院先は自宅ではなく車いす生活でサポートが受けられるシェアハウスとなりました。支援を行う中で、本人が課題に目を向ける事や退院後のイメージを作る事に時間を要し、長期入院となった事例を発表しました。

多くの演者の発表を聞いた中で私が印象に残った演題は、急性期病院に従事している方の症例で、旅先のホテルで心肺停止となり人工呼吸管理が必要となった方の航空機搬送の事例です。入院早期に介入し家族の意思を代弁する機能、チームで方針や家族の意思を共有し転院先と連携する機能、業者との連絡調整を担う仲介機能の役割をMSWが果たす事が大切とおっしゃっていました。県外へ転院もしくは退院する際により一層MSWが家族の意思や、院内・院外の情報を集約し、コーディネートする役割が求められていると感じました。

今回の学会ではMSWの役割や立ち位置について改めて振り返る事が出来ました。今後も、患者・家族が退院後の生活をどこまで考えイメージしているのかひとつひとつ言語化してもらい、課題を明確にし、MSWにて手段・方法・資源を提案し、納得した形で退院出来るよう支援していきたいです。



「第8回沖縄県ソーシャルワーク学会 社会福祉公開セミナー2019」

参加報告

那覇市立病院 総合相談センター
医療福祉相談室 仲宗根 恵美

令和2年2月22日(土)沖縄大学で開催されました、上記学会へ参加しました。

午前は沖縄県ソーシャルワーク学会、午後は社会福祉公開セミナーの二部構成となっており、昼食時には沖縄県ソーシャルワーカー協議会構成団体(沖縄県社会福祉士会・沖縄県精神保健福祉士協会・沖縄県ソーシャルワーカー協会・沖縄県医療ソーシャルワーカー協会)の会員同士で交流・意見交換出来る企画が準備されていました。学会は第1～第3分科会に分かれ、各分科会4演題の発表が行われました。

私は、第2分科会で共同演者として代理発表しました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、1演題がキャンセルとなりましたが、分科会には20数名が参加していました。

4演題中、3演題は沖縄県ソーシャルワーカー協会所属、1演題は精神保健福祉士協会所属の会員によるものでした。患者さんとの関わりを丁寧にまとめた研究や、うつ病の方を対象とした復職・再就職の支援やプログラムの紹介、うつ症状の再燃を防ぎ、働き続けるための取り組みについて発表がありました。当院でも治療と仕事の両立支援に取り組み、沖縄産業保健総合支援センターやハローワークとの連携も行っているため、地域での就労支援は大変興味深い内容でした。

第二部の公開セミナーは、「ひきこもりとソーシャルワーク～その実像から『ひきこもり』にとらわれない支援を考える～」と興味深いテーマでしたが、別用のため参加出来ず、講演を聴くことは出来ませんでした。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年に比べ参加者が少ない印象は受けましたが、様々な分野で活躍する社会福祉士の発表を聞き、久しぶりにあう仲間もいて、分野は違えども専門職としての思いは同じで、つながりを感じる事が出来る学会でした。

今回の研究発表に向け、当部署のMSWで何度も検討し、見直しを行っていましたが、メンバーの熱い思いを背負っての発表は緊張も大きかったです。普段意識せず行っている業務をソーシャルワークの視点で考え、それを言語化する難しさを感じながらも、深く掘り下げて考える楽しさがありました。

最後に樋口会長はじめ、予演会に参加していただきました会員の皆さまにはこの場を借りてお礼申し上げます。

令和元(2019)年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業 専門職研修会について

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
会長:樋口 美智子

2020年2月26日(水)に予定していた「ヴァルネラビリティ(社会的な脆弱性を有する人)への入退院支援のあり方」について学ぶ研修会は、主催の県高齢者福祉介護課と協議の結果、新型コロナウイルス感染症対策として、＜高齢者や基礎疾患等のある方と接する機会の多い医療・介護関係者の集まる研修＞であることから、開催を自粛・中止しました。

参加を申し込まれた皆さんには、大変申し訳ありませんが、講師の資料等を送付しましたので、ご理解をお願いします。

さて、今回の研修の目的は、「意向の形成・表明が困難な人に対する入退院支援のあり方」を、参加者の皆さんと一緒に考えることでした。玉木氏が資料で述べているように、「対人援助においては分野や領域に限らずヴァルネラビリティを有する人の支援が求められている」のですが、特に病院を利用する方々は、病気等により対処能力が低下しており、また通院や入院により、新たな生活課題や社会的・経済的課題を抱える方が多いものです。これまでの家族や地域との関係も露わになります。

「本人の意向を尊重した入退院支援」を、と言われて久しいのですが、MSWは本人の意向を尊重することの難しさを日々感じているのも現実です。その中で、そもそも「意向を形成すること、意向を表明すること」が困難な人に、どのように入退院支援をするかは、さらに難しく大きな課題です。

玉木氏は「意向の形成・表明の構造」「ヴァルネラビリティを有する人に対する支援の構造」の理解から、「生きづらさに配慮した入退院支援」について論証しています。資料を読まれた方は、少し難しく感じたかもしれません。しかし、目の前の患者さんやご家族を思い出しながら、自らの実践を振り返ってみると理解し易く、またとても大事なことに改めて気づくことができると思います。

今回の研修中止は残念でしたが、資料で予習することができましたので、改めて研修の機会を設け、皆さんと一緒に考えることができたらと思っています。



自主勉強会報告

*3月に「めだかの学校」「めだかのホームルーム」「めだかの放課後」「OGSV」の自主勉強会の開催ありませんでした。

トピックス

「病院利用する外国人への支援 文化の違い配慮不可欠」

沖縄タイムスクらし相談(医療)

2019年3月16日(月)掲載済

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 小橋川 聡

国は団塊の世代が75歳以上となる2025年をめどに、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築を進めている。医療の進歩によって以前より命が助かるようになった一方で、重い障がいや進行する病気を持ちながら生活する人が増えてきた。自らの人生をどこで生活し、どのように過ごしたいか、また、患者を支える家族の意思や希望は何か。さまざまな課題を抱え、難しい決断を迫られる場面に患者・家族が直面する事があるが、限られた入院期間では十分時間があるとはいえない。

それは、地域で暮らす外国人の方々にとっても同じである。最近では住民登録をし、長く地域の一人として暮らしている方々に加え、学生、労働者、外国人旅行者など多くの外国籍の方が病院を利用する。受診時の言葉の問題や宗教や文化の違いによる配慮も不可欠であり、病院によっては、専任の通訳者や通訳システムを導入している。異国での病気という状況に加えて、言葉の通じないストレスは、私たちの想像を超えるものであり、患者さんの話を聞き、文化の違いを理解する必要がある。大事なのは誰であっても、本人の価値や意思を尊重し、その思いに寄り添うことである。

その時に私たちソーシャルワーカーは、医療だけではなく、保健・福祉・介護はもとより、多文化支援領域の人たちとも力を合わせ支援するため、仲介的役割を果たしている。今後、地域包括ケアシステムの構築を進めるうえで、社会福祉の専門職としてソーシャルワーカーに求められる役割は大きいと考える。このような職種が医療機関に存在することを覚えてもらえれば幸いです。

部会からのお知らせ

4月研修部だより

通常総会・勉強会

テーマ	① 診療報酬改定について(予定) ②通常総会
日時	5月で調整中
会場	調整中
参加費	無料
問い合わせ	株式会社 千家 香村

めだかの学校(おおむね経験年数3年未満)

テーマ	年間活動計画の検討、リーダー選出等
日時	4月で調整中
会場	調整中
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院 謝識

めだかのホームルーム(おおむね経験年数3年以上)

テーマ	年間活動計画の検討
日時	調整中
会場	調整中
参加費	無料(飲食代100円)
問い合わせ	沖縄協同病院 地域連携課 松永

めだかの放課後(経験年数5年以上)

テーマ	年間活動計画の検討
日時	調整中
会場	中頭病院
参加費	無料(飲食代200円)
問い合わせ	大浜第一病院 医療福祉課 當銘

OGSV

テーマ	年間活動計画の検討
日時	調整中
会場	調整中
参加費	無料
問い合わせ	沖縄国際大学 樋口

発行 2020年3月16日
研修部 香村 真範

3月理事運営会議録

2020年度 MSW 協会理事会 3月議事録

2020年3月16日(月)19:00~20:30

場所: 県総合福祉センター

【参加者】樋口会長、新垣副会長(司会)、當銘事務局長、安慶名(書記)、長、伊禮、石郷岡、
香村、秦、山城

【欠席者】又吉副会長、高江洲、大久保、小橋川

1. 各部報告

[研修部]香村理事、長理事

1) 通常総会・勉強会

令和2年5月20日または5月27日のいずれかで予定。

日程調整中。

場所: 新型コロナウイルス感染対策のため未定

2) めだかの学校、めだかのホームルーム、OGSV

3月次年度計画予定。日程未定。

3) 研修部 次年度活動計画検討会議

日程: 3月24日(水)

場所: 県総合福祉センター



〔社会活動部〕秦理事

・なごみ会 4 月会議予定

・ふくしの窓について:

一部の会員に負担が大きい。次年度の活動方法に課題。病院割り振りまたは、会員全体にいきわたるような担当割り振りを検討。4 団体で継続のあり方の検討も必要。樋口会長より 4 団体へ申し出予定。

〔広報部〕安慶名理事

担当: 4 月・沖縄協同病院 鶴淵

タイムス記事(第三月曜日掲載): 3 月 16 日 小橋川 掲載

はいさいワーク: なし

令和 2 年度事業計画案配布 → 承認

MSWニュースの SNS 配信を 3 月より理事メンバーで模擬運用予定

〔事務局〕當銘事務局長

・デザイン事業会議環境整備のため、Wi-Fi を準備予定。遠方の理事も事業の会議参加できるように環境調整する。インターネット契約、カメラ、ルーター、パソコン等備品をレンタル検討。

・退会者 2 名、新入会員 1 名

・入退会者の連絡がこない場合、事務局で会員管理が困っている。MSW ニュースに届出を案内載せる。

・本協会の清算管理体制を検討。

・九州協議会の会計は熊本県へ引き継ぎ終了。会員 1 人当たり九州協議会の会費年 200 円、災害積立金年 200 円の会費を納めている。県 MSW 協会年会費 6000 円のうち、500 円は九州協議会費に納入していることになっている。

〔その他〕

・理事体制の見直し、確認。事務局変更案、事務局の案内発信方法を検討。

・研修案内などの配信を、FAX から QRコードへ変更など検討。

・次回理事会で各部会の事業報告と事業計画を提出

次回理事会 2020 年 4 月 20 日(月)19:00～ 司会: 新垣 書記: 高江洲 連絡: 伊禮

☆編集後記☆彡

ドドドドドド♪どっどーようごじっ♪ 土曜日の夕方5時の枠に移動したアニメドラえもん、もちろんみんな見ているかとは思いますが、そのオープニングアニメ、素晴らしいですね！ なんて、『藤子・F・不二雄』愛にあふれていることでしょう。星野源のドラえもん賛歌な曲とのマッチングもすごくて、見るたびに涙あふれます。未視聴の方はぜひー(*´艸`)

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 ホームページ
<http://www.msw-oaswhs.jp/>